

コンサルタントの現場から

第24回

(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるものではないかという四方山話を綴ったものです。

なぜ日本の品質神話は崩れたか

「日本のブランドは品質が良い」というのが、今までの市場の評価であった。しかし、多大のリコール問題に代表されるように、日本の品質神話はいつの間にか崩れてきている。なぜ、日本の品質神話は崩れてしまったのだろうか。

その一つは、ISOに代表される品質マネジメントシステムの導入だ。取引条件の一つとしてISOの取得が義務付けられている企業もあり、ISO/TS等の取得は必須事項となった。ところが、これが形式的に運用され、それで品質が確保できると判断して問題を起こしているケースは意外に多い。

例えば、量産に入る前にQC工程図や標準作業書が作成されていることが必要だが、それらが作成されているかどうかのチェックだ

ための散布図等を使いこなしていた。また、生産の現場では、バラツキについての管理がされていた。機械別や人別等、層別して分布がどうなっているかも見ているし、管理図等も使いこなしていた。

ところが、今ではこれら誰も知っていたQCの7つ道具を知らないという人がものすごく多い。実際、生産の現場で管理図等を見ることは、ほとんど無くなった。筆者は日本科学技術連盟の講師をしていただくことがあるが、最初に「良い品質とは」という中の一つとして、「バラツキの無い」ということを理解してもらう必要があるのだが、この重要性への理解も薄れているように感じる。日本製品は、どれを買っても、当たり外れが無いというのには、バラツキのないものづくりができていたからなのだが、今や、これらの基本も忘れられている現場が多くなってしまった。ところで、皆さんの会社では、QCの7つ道具を熟知している人は何人くらいいるだろうか、是非一度チェックしていただきたい。

疎かになったQCの基本教育

以前は、製造現場に限らず、全職場でQCサークル活動が積極的に展開されていた。また、誰もがQCの7つ道具を勉強していた。QCサークル活動に当たっては、パレート図や特性要因図、特性と要因の関係を把握する

日本でも生まれたQCサークル活動は、昔は、どの企業でも行なわれていた。ところが、このコラムでも記載したように、日本では小集

団活動を行なっている企業は大幅に減少している。日本と海外で比較すると、海外の方がQCサークル活動等の小集団活動を実施している企業が多いのではないかと感じる。それは、海外に展開されたQCサークル活動が、そのまま残っているところが多いからだ。

「日本のものづくりを取り戻すのは海外拠点の方が、QCの7つ道具をはじめとしたQCの基本や手法を知らないというケースが増えてきている」ということだ。そうなるに、適切な指導ができなくなる。大抵の方はよくご存じのことではあるが、今一度、ものづくりの基本である5Sの進め方や、QCの基本は、しっかりと理解して指導にあたっていただければと思う。

「日本のものづくりを取り戻すのは海外拠点」という話しを前回記載した。日本で生まれたQCサークル活動や5S活動は、日本のものづくりを支えるベースの活動である。今ではこれらQCサークル活動や5S活動を維持・発展させていくのは海外拠点の役割であり、また、日本の品質神話を取り戻すのも、先ずはタイ拠点からの始まるのではないかと考える。タイ拠点を預かる皆さんに期待したい。



<執筆者プロフィール>

高橋 功吉 (たかはし こうきち)

(株)ジェムコ日本経営 常務理事 グローバル事業担当

大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMC(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

世界に「日本食」8万店

ブーム追い風、大幅に増加

世界各国にある「日本食」とされる飲食店が、ことし7月時点で約8万8650店に上ることが、農林水産省の調査で22日分かった。前回調査の2013年1月時点に比べ1.6倍になった。健康志向を背景にした日本食ブームが、店舗数の大幅な伸びにつながったとみられる。

地域別では、店舗数が最も多いのはアジアで約4万5300店と1.7倍になった。北米が1.5倍の約2万5100

店、欧州は1.9倍の約1万5500店だった。オセアニアや中東、アフリカなどは店舗の数は少ないものの、2.2.6倍と伸び率は高かった。農水省の担当者は「ここまで増えるとは思っていません」と話した。日本の食事が健康に良いとされるのに加え、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産への「和食」登録や、訪日外国人旅行者の増加で、日本食への関心が高まっていることが要因とみられる。(共同)

タイでの工場建設・増築

タイでの工場建築・増築・設備に経験豊富な日本人が全力でサポート!

提案力かつローコストが強み! 工場内設備・電気設備も一括対応

設計・施工・メンテナンスも一貫して自社社員でフォロー!

お問合せはこちら Tel: 081-991-5078 (杉浦) E-mail: sugiura.tcc@tcctecnica.co.th

TCC TECNICA CO.,LTD. (本社パトナーニ・支拠点シーラチャ 日本人社員6名) 122 Moo.20 T.Klongnueng, A.Klongluang,Pathumthani 12120

www.tcctecnica.co.th

人と空気と水の環境創造

SANKEN-EMC

三建設備工業株式会社とタイ王国の実績豊富な上場ゼネコン EMC PUBLIC COMPANY LIMITED社の共同出資会社として建築工事・空調設備・衛生設備・電気設備・クリーンルーム設備などのプランニング設計・施工・保守・リニューアルなどの一体的なサービス

「JAPANスタンダード&ローカルコスト」にてご提案します。

SANKEN-EMC Company Limited

ITF Tower 140/66, 28Floor Silom Road, Suriyawong Bangrak,Bangkok 10500

TEL : 0 2615 6100 FAX : 0 2615 6128-30

E-mail: info@sanken-emc.co.th

www.sanken-emc.co.th